

ザンビア通信 vol.5

青年海外協力隊 平成 22 年度 3 次隊

ザンビア 理数科教師 金田直己

年末年始に訪問者が日本からやってきました。彼の名前は「山本宏一」。30 歳。豊橋市立東田小学校の教員である。彼と私は中学校 2 年の時に同じクラスになって以来の友人です。

ザンビアに来ると聞いた時に私は悩みました。案内する場所が無い・・・ザンビアには観光地が少ない非常に残念な国なのです。唯一と言っていい観光地リビングストーンには行くとしても今回の日程である 10 日間を埋めることは出来ない。北部州に Kaphishya 温泉というものがあります。隊員や欧米人には人気があるが日本からの訪問者に温泉に連れて行っても仕方が無い。そしてザンビアのサファリは動物があまり見れないという評判である。悩み抜いた結果、任地であるカピジンパンガに連れていくことにしました。自分の任地に行っても基本的にやることはないのだが田舎の雰囲気味わってもらっただけのエコツアー。

北西部州都ソルウェジ(首都ルサカからバスで 9 時間)からは普段はバイクですが、今回は二人なのでヒッチハイク。2 時間クルマが捕まらなかったり、途中から 7km 歩いたりして家に着くまでに 3 時間半以上掛かってしまいました。お互い重い荷物を持つての移動だったのでヘトヘト。日の入りギリギリになりかなり危なかった。



翌日の夕食は私のシェアメイトの協力によりザンビアのソウルフードであるシマを頂きました。もちろん今回は初シマ。シマと一緒に食す定番の鶏肉を街で生きたまま購入。一羽 600 円ほど。今回はもちろん山本先生による解体。これも初体験。な

かなか日本で鶏の解体をする機会はないのでこれも田舎ならではの。シマの付け合わせはシェアメイト定番の「鶏肉とトマトのカレー風味煮込み」と「パンプキンリーフと玉ねぎの炒め物」。

シマはとても口に合ったようでとても好評でした。



次の日の昼食には日本に帰ってから生徒にシマを食べさせたいとの要望により自らシマ作りに挑戦。初めての割には良く出来ておいしかったと思います。

お土産でシマの素となるミルミル(乾燥メイズを挽いたもの)をしっかりと買って帰りました。是非その味を生徒に味わってもらいたいです。

この他には学校の教室を利用した不定期に行われるゴスペルを鑑賞、村を散策し子供たちとの交流などをしていきました。残念ながらこの時期は学校は休み期間中なのでザンビアの授業風景を見せることは出来ませんでした。ターム期間中だったら山本先生による特別授業をお願いしたかった所ですが。

村を去る際に撮ったシェアメイトとの3ショット。(右写真 左から山本・シェアメイト・金田)



カピジンパンガのあとは鉄板観光スポット「リビングストーン」に行き、バンジージャンプにチャレンジしました。(左写真 山本本人) 一部の新聞やネット上で報道があったと思いますが、この場所でロープが切れる事故がありました。ちなみにこの事故が起こった日と山本先生が跳んだ日は同じ日です。タイミングが悪ければ・・・想像するとゾッとします。

さて、いよいよ新年度が始まりました。任期の二年もいよいよ折り返し後半戦です。今まではグレード8の理科と数学を担当していましたがグレード9の理科と数学も担当することになりました。アッパーグレードの理科・数学の先生が自分一人だけ。元々担当していた校長先生は授業から退いて、本当にこれで良いのか？と疑問を感じています。昨年はグレード8の担任をやっていましたが今年はそのまま持ち上がってグレード9の担任になりました。昨年はクラス作りがあまり出来なかったのが今年にはマネジメントをしっかりと良い雰囲気作りをしたいと思っています。まずは豊橋発祥の「530」で教室も学校もキレイにしていく活動をクラスのみんなでやっていこうと思っています。

Vol.6 に続く。